

奈井江町地域公共交通会議における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

①日常生活に必要な公共交通の確保

・急速に高齢化が進む中、生活交通の確保を目的として、自家用車からいつでも公共交通に転換できるよう、公共交通体系の確立が求められている。

②公共交通空白地域の解消

・国道12号、道道奈井江浦臼線及び町営バス向ヶ丘線沿線以外は、公共交通空白地域となっている。特に市街地でも南町の一部は公共交通空白地域となっており、解消が必要である。

③地域に即した公共交通と高齢化への対応

・市街地に人口の8割が居住し、この地域の人口密度は高く、農村地域の人口密度は低い状況である。また、農村地域の一部で高齢化率は5割以上と高い状況である。
・このことを踏まえ、市街地では、買物や通院、町外への移動のためにJRや中央バスの接続に配慮した、循環バスの運行により生活交通の確保を図ることが必要である。合わせて、通院や買物などに関しては、荷物や停留所までの歩行、冬期間のことを考慮し、施設入り口に停留所を設けるなど、高齢者に配慮した対応が必要である。
・農村地域では、買物や通院、町外への移動に対し、自宅前送迎の乗りあいタクシーの運行により、高齢者に配慮した対応と合わせ、生活交通の確保を図ることが必要である。

生活交通確保維持改善計画の目標

- ・町営バス(市街地循環線) 1,500人/年
- ・町営バス(向ヶ丘線) 4,600人/年
- ・乗りあいタクシー 650人/年
- ・平成28補助年度(平成27年10月)に、14人乗り車両を購入し、安全で効率的な輸送に資する。

令和4年度事業概要

- ・町営バス向ヶ丘線 【みなクル～奈井江駅～ないえ温泉】 平日11便 休日 8便
- ・町営バス市街地循環線 【みなクル～奈井江駅～みなクル】 平日4便 ※運賃 大人200円 子ども他100円
- ・乗りあいタクシー 【農村地区全エリア】 平日4便 ※運賃 大人300円 子ども他150円

地域公共交通の現況

- ・JR函館本線(奈井江駅)
- ・北海道中央バス(株)
(滝川美唄線・滝川奈井江線)
- ・浦臼町営バス(奈井江線)
- ・奈井江町営バス(市街地循環線・向ヶ丘線)
- ・北星三星交通株式会社
(乗りあいタクシー:農村地区全エリア)

協議会開催状況

○令和4年6月27日

第1回地域公共交通会議

【主な協議事項】

- ・バス停の休止について
- ・向ヶ丘線の減便について
- ・生活交通確保維持改善計画について(令和5補助年度)

○令和5年1月20日

第2回地域公共交通(書面会議)

【主な協議事項】

- ・地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について(令和4補助年度)

令和4年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

○プロセス

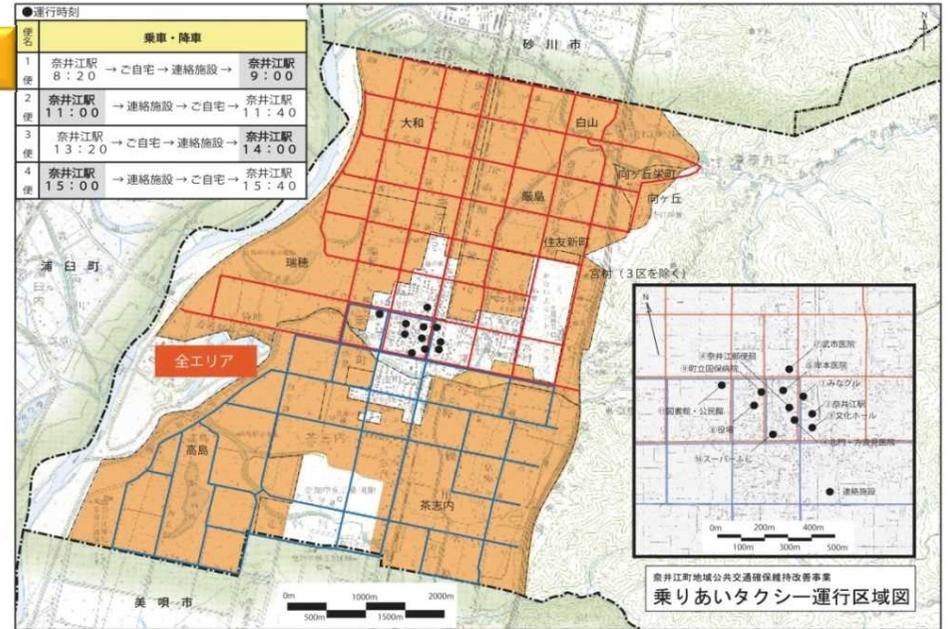
- ・平成25年4月～5月 実証運行
- ・平成25年7月～8月 地域住民への説明会
- ・平成25年10月 本格運行

○創意工夫

- ・利用者からの聞き取りを実施
- ・平成27年2月～3月に乗降調査
- ・平成28年4月に乗りあいタクシーのエリア統合
- ・平成30年12月～平成31年1月に乗降調査
- ・令和2年10月市街地循環線路線拡張
- ・令和3年12月～令和4年1月に向ヶ丘線乗降調査

2) 運行系統

乗りあいタクシー



町営バス(市街地循環線)



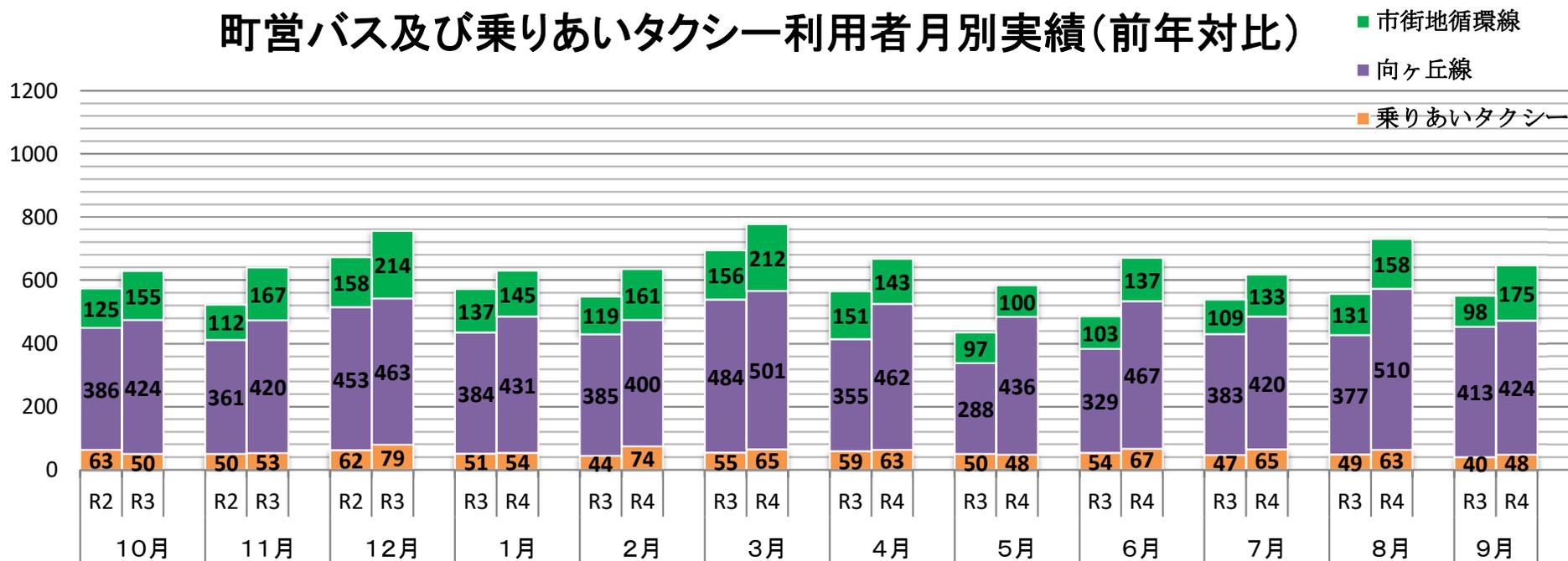
町営バス(向ヶ丘線)



3) 利用実績

(人)

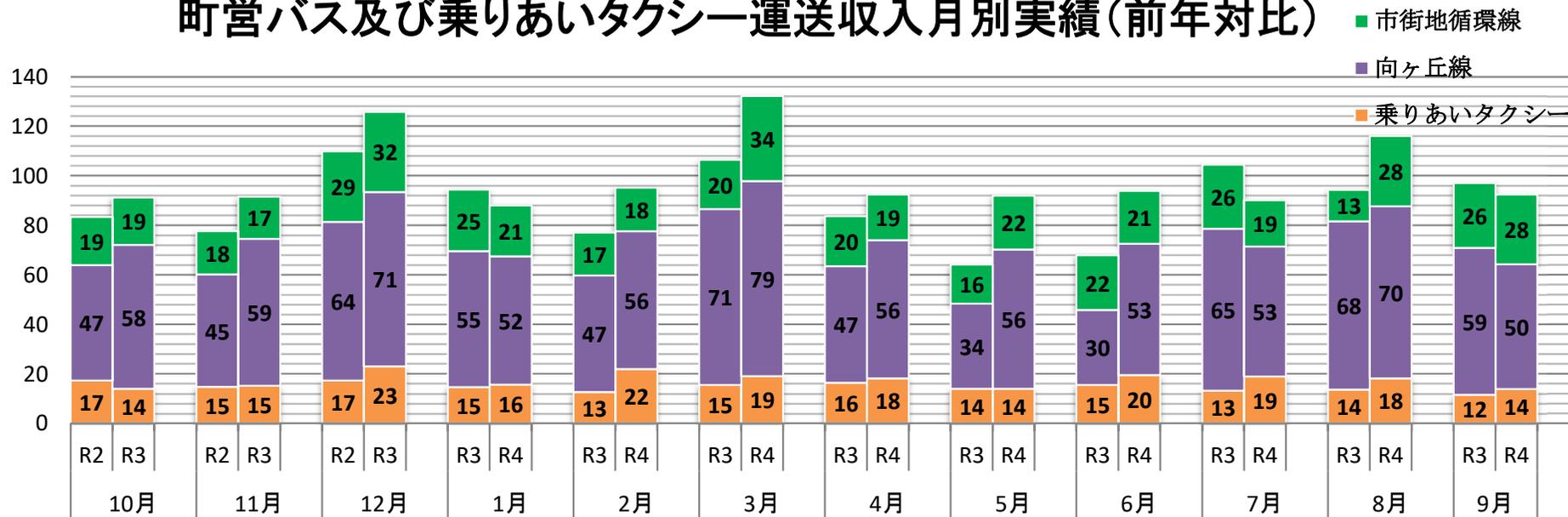
町営バス及び乗りあいタクシー利用者月別実績(前年対比)



4) 収入実績

(千円)

町営バス及び乗りあいタクシー運送収入月別実績(前年対比)



5) 事業実施の適切性

事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。

6) 目標・効果達成状況

○町営バス（市街地循環線）

住民への周知が広がったこと、新型コロナウイルス感染症の外出自粛が緩和された影響で輸送人員は目標1,500人/年に対し、1,900人/年で目標達成率は126.7%であった。

○町営バス（向ヶ丘線）

ないえ温泉の休館、新型コロナウイルス感染症拡大により減少傾向であったが、新型コロナウイルス感染症の外出自粛が緩和されたこと、運転免許返納者の増加等により、輸送人員は目標4,600人/年に対し、5,358人/年で目標達成率は116.5%であった。

市街地循環線と同規模車両になることから、故障や車検時の代替車両として相互に対応できている。

○乗りあいタクシー

新型コロナウイルス感染症の外出自粛が緩和されたこと、運転免許返納者の増加、町民への周知が広がったことにより、輸送人員は目標650人/年に対し、729人/年で目標達成率は112.2%であった。

7) 事業の今後の改善点

○町営バス（市街地循環線）については、年々住民への定着が進んでおり、大きな利用減にはなっておらず、一昨年は運行経路の拡張を行うなど利用者ニーズに応えた。今後も継続し利用者の増加に努める。

○町営バス（向ヶ丘線）については、新型コロナウイルス感染症の外出自粛が緩和された影響で増加に転じているが、利用者の少ない時間帯があることから、利用者ニーズに対応した運行などを検討し、利用率の改善に努める必要がある。

○乗りあいタクシーについては、町民への周知が広がってきているが、利用者が固定化されてきているため、新たなる利用者の掘り起こしなど、利用者増加に努める。

8) 地方運輸局における二次評価結果

- 自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- 新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中、各系統とも目標値を上回っており、今後新たな目標を設定するにあたっては、持続可能な公共交通を維持する観点から、収支率といった事業効率の改善につながる目標を設定することもご検討いただきたい。
- 今後も継続的に維持していくためにも、必要に応じて町単独での地域公共交通計画を策定することを期待する。